

＜平成29年度 ハローオリピズム事業＞

オリンピック教室

実施報告書

秋田県 藤里町立藤里中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

- 期 日 : 平成29年7月19日 (水)
- 場 所 : 藤里町立藤里中学校
- ク ラ ス : 2年A組 (20名)
- オリンピアン : 小口 貴久 先生 (リュージュ)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・小口先生から簡単な自己紹介の後、リュージュを知っているか問いかけ、ボブスレー、スケルトン、リュージュの滑走姿勢を体験。
- ・運動の時間では様々な運動を通じて皆と楽しんでいきたいと話し、準備体操へ移る。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2チームに分かれて縄くぐり(30秒×3回)を実施。正確にくぐれた数を数えること、縄をきちんと床につけて回すこと、縄を跳んだり引っかかってしまったら0から数えなおすことをルールとし、ルールを守りながら、記録を伸ばすために作戦を考えてみようと伝える。

4. まとめ



- ・運動の時間は「考える」ことをテーマに取り組んでもらった。スポーツには正解はなく、様々なことを考え、取り組んでみるのが大切である。
- ・座学の時間では、小口先生の経験を話すので、オリンピックについてさらに学んでいこうと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・簡単な自己紹介の後、バンクーバー大会の映像を見せながらリージュ競技について説明。オリンピックと聞いてイメージするものを書き出し、オリンピックが開催されている理由を今日の授業で知ってほしいと目的を確認。競技を始めたきっかけやオリンピックを目指す過程で取り組んだことを交えながらオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



- ・発問① 運動の時間に実践できていたオリンピックバリューを考える。
- ・発表① 人の意見を聞く（エクセレンス）、仲間と協力した（フレンドシップ）等の意見が挙げられた。
- ・発問② 夢や目標に向かって、これから実行したいバリューを考える。
- ・発表② 何事にも挑戦する（エクセレンス）、話を聞く（フレンドシップ）、挨拶をする、礼儀を忘れない（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックバリューをみんなも実践できてきたことに触れ、バリューは特別なものではないが、当たり前でできていることを理解して取り組むことが夢の実現につながるため、バリューを心に留めて、小さなことでもいいので挑戦してほしいと伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年A組



美術作品を制作するために
 努力 自身の構想をよく練って、心を込めて制作し
 友情 友達との作品の良さや美しさを感じ取り、励まし
 実践 材料と用目の特性を考え、工夫して表現しよう
 感動 古今のすぐれた作品を鑑賞して、感性を磨こう

■ 記 念 品 贈 呈

2年A組



■ 証 明 書 贈 呈

